

公益財団法人星総合病院 公的医療機関等2025年プラン(2024年10月一部修正)

項目		記載例
病院名		公益財団法人星総合病院
R5.7.1現在の病床数(総数)	一般病床415床(他に精神科15床)	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 一般病床415床(他に精神科15床)
・高度急性期	13床	・高度急性期 20床
・急性期	402床	・急性期 335床
・回復期		・回復期 60床
・慢性期		・慢性期
(精神)	15床	(精神) 15床
・休床	※新型コロナウイルス感染症対応のため、急性期病床は一部休止病床とした	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		高度急性期については、現在のICU、HCUの他に新生児特定集中治療室(NICU)を7床程度転換する。周産期医療分野の充実を図る(現在、NICU基準で4床設置済み)。手術件数が増え、治療後、集中的にリハビリを行い日常生活動作能力の向上を目的とする患者が増加しており、回復期リハビリ病棟を持つことで、より積極的に在宅復帰支援を実施したい。
診療科目(令和5年7月1日現在)		診療科目33科(内科、心療内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、精神科、麻酔科、歯科 他)
職員数(令和5年8月1日現在)※郡山市保健所報告		・医師 常勤75人、非常勤30.8人 計105.8人 ・看護師 常勤262人、非常勤7.2人 計269.2人 ・薬剤師 常勤16人、診療放射線技師 常勤38人、理学療法士 常勤50人 他
現在(令和5年8月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)※東北厚生局、病床機能報告		1. 病棟毎 ICU 特定集中治療室管理科1 平均在院日数11日、稼働率100%、HCU ハイケアユニット入院医学管理科1 平均在院日数5日、稼働率50%、一般病棟 急性期一般入院科1、急性期充実体制加算平均在院日数1.4日、稼働率65%、精神科病棟 精神科15対1入院基本料 稼働率0% 2. 施設毎 休日に受診した患者延べ数2,476人、夜間時間外に受診した患者延べ数4,982人、救急車の受入れ件数3,872件
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		がん、急性心筋梗塞、精神疾患対応。福島県の委託で認知症疾患医療センター事業、若年性認知症相談窓口事業を行う。地域医療支援病院承認。当法人内に「ほし横塚クリニック」があり、クリニックには福島医大地域医療家庭学講座より4名が勤務しており、主に在宅医療を担う。
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		新型コロナウイルス感染症施策として、福島県より「重点医療機関」及び帰国者・接触者外来を担った。福島県と令和6年度に向けて、新興感染症等対応で入院診療20床程度を締結予定。
現在(令和5年11月1日現在)の他機関との連携		当院は主に2次救急を担い、3次救急は郡山市内の他医療機関に紹介。当院の急性期を脱した患者は、法人内に回復期リハビリ病棟や介護保険施設があり、紹介する。また、他医療機関等にも積極的に紹介する。
現在(令和5年11月1日現在)の自施設の課題		・新型コロナウイルス感染症施策の中、地域の医療需要は減少した。但し、郡山市内の2次救急輪番病院は須賀川市、田村市等の県中圏域からの救急搬送対応数が多いことより救急医療体制の整備が必要である。 ・心臓血管外科、及び脳神経外科等の急性期診療を担う医師数は不足しており、医師の確保は課題である。また、看護師等も不足しており、採用活動をしている。
R7年(2025)において地域で担う役割		・地域の基幹病院として、急性期・高度医療を担う総合病院の医療体制を提供する。脳神経疾患や循環器疾患等対応の急性期医療の体制は維持する。急性期の治療後も回復期リハビリ病棟を持つことで、より積極的に在宅復帰支援を実施する。 ・当院は小児科、産婦人科、精神科常勤医師、及び助産師、公認心理士や社会福祉士等が多く在籍しており、安全、安心な分娩体制、ハイリスク分娩等にも対応する。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		行政機関による2次救急、3次救急病院への補助や支援をお願いしたい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		がん、急性心筋梗塞、精神疾患対応。福島県の委託で認知症疾患医療センター事業、若年性認知症相談窓口事業を行う。地域医療支援病院承認。当法人内に「ほし横塚クリニック」があり、クリニックには福島医大地域医療家庭学講座より4名が勤務しており、主に在宅医療を担う(令和7年度も継続)。
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		新型コロナウイルス感染症施策として、福島県より「重点医療機関」及び帰国者・接触者外来を担った。福島県と令和6年度に向けて、新興感染症等対応で入院診療20床程度を締結予定(令和7年度も継続)。
R7年(2025)の他機関との連携		当院は主に2次救急を担い、3次救急は郡山市内の他医療機関に紹介。当院の急性期を脱した患者は、法人内に回復期リハビリ病棟や介護保険施設があり、紹介する。また、他医療機関等にも積極的に紹介する(令和7年度も継続)。
R6(2024)からの働き方改革への対応について		・令和5年4月、労働基準監督署より「医師の宿日直許可」の認可。働き方改革はA水準を申請する予定。 ・医師の採用活動を継続的に実施することが大切。
建物の建替え、改修予定		平成25年1月、現在の病院を新築した。病院機能を踏まえ、必要時には、改修工事を実施する。
高額医療機器の購入		令和3年度、手術支援ロボット ダビンチ、Mako(股関節、整形外科システム)を購入しており、今後、必要時に、高額医療機器の検討と購入を行う。令和6年度、Mako(膝関節、整形外科システム)を購入した。
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		急性期・高度医療を提供するために、医師の確保は継続的な課題である。また、看護師等の確保も課題である。